

シドニー発着

ロイヤル・プリンセスのクルーズ体験記

March 13th-16th, 2025

山田桂子（一般会員）
武者加苗（札幌大学）

2025年3月のスマートクルーズアカデミーでは、シドニー発着のロイヤル・プリンセス号に3泊4日で乗船しました。学生チームとして兵庫県立大学の4年生が10名、教員チームは4名が参加。加えて、武者の友人である女性2名も乗船し、計16名での旅となりました。シドニー発着、寄港地は3日目のイーデンのみというショートクルーズです。

以下は、クルーズ旅を初めて体験された山田桂子さんがSNSに投稿された感想に加筆したものです。



総括

人生初のクルーズから帰ってきました!わずか3泊4日のクルーズでしたが、終始感動・感激の連続でした。写真を見返すうちに自然と込み上げてくるものがありますが、表現しようにも適切な言葉が見つかりません。ただただ楽しく、嬉しく、幸せな時間でした。

乗船前は何も知らないことへの不安もありましたが、それはすべて払拭されました。目の前に広がる世界は、極端な言い方をすれば“自己解放の場”。誰もが思いのままにやりたいことをして過ごし、それが許される空間でした。もちろん、マナーがあってこそその自由ですが。

誰からも、何からも縛られることなく過ごす時間の中で、“実は自分が好きだったもの”、“今まで気づけなかった趣味や嗜好”、そんな新しい発見もありました。まだ元気なうちにクルーズを体験できて本当に良かった。ですが、これは始まりに過ぎません。第2回、第3回と続くであろう、新たな世界と自分自身への期待が膨らみます。こんな素敵な経験をさせてくれたチームに、最大限の感謝を伝えたいです。クルーズで一緒に過ごした皆さんにも深くお礼を申し上げます。本当に、本当にありがとうございました!一生涯の思い出、宝物になりました。

そして声を大にして言いたい、クルーズ、ブラボー!!

DAY1 シドニー出港 13th Mar.

シドニー空港でかなえ姉さんと合流し、LRT(電車)でサーキュラー・キー駅へ移動し、港までは徒歩5分ほど。途中、1人1本持ち込めるワインをリカーショップで購入(注:ロイヤル・プリンセスは乗客1人につきボトル1本を室内へ持ち込める。クルーズ・ターミナル近くにその旨を明記したリカーショップがある)

乗船手続きでは、まずスーツケースを預け、チェックインでメダリオン(身分証・クレジットカード・ルームキーを兼ねる)を受け取り、手荷物検査を終えたら完了。

今回のお部屋は、ちょっと贅沢にバスタブ付きのミニスイート。天気も良く、バルコニーから眺めるシドニー港の街並みは最高!上質なビュッフェランチでお腹を満たして部屋に戻ると、なんとウェルカム・シャンパンが届いていた!

次に船内専用アプリで避難訓練の動画を視聴し、救命胴衣を着用して指定の集合場所へ行き、メダリオンをタッチ。

出港までは、19階まである船内を探索。英国キャサリン妃(船の名付け親)の写真を見たり、チャペル、図書館、フィットネスセンター、ショップをチェック。そして18時の船出を17階のサンデッキから見守る。夕陽に照らされ、美しく輝くオペラハウスやハーバーブリッジが間近に!想定

外の光景に心を奪われた。

ディナーはフレンチのコース料理。量が分からず適当に頼んだら、やはり海外仕様のボリュームだった。食べ過ぎた後は、船内のメインホールでダンス。国籍問わず、みんな入り乱れて踊るのがクルーズの醍醐味だ。そしてお風呂に入って、電池が切れたように就寝。揺れは微かに感じる程度で、朝まで爆睡・・・

DAY2 終日船内デー 14th Mar.

2日目は早起きして甲板をウォーキング。ちゃんとウォーキング用とランニング用でコースが分かれているのがナイス。日の出を眺め、混雑し始めたジャグジーで地元のご夫妻とおしゃべりした後、着替えてレストランで朝食をオーダー。

朝から晩までぎっしり詰まったスケジュールは、アプリや毎日の新聞で事前に確認可能だ。ただ、3つ4つとイベントが重なることも多く、毎回どれに参加するか迷ってしまう。まずは、クルーたちも一緒に参加する当てるゲームへ。距離感が縮まり、一気に親近感が湧いた。

次に「新陳代謝を上げる方法」のレクチャーを受講。しかし、心地よい話術と満腹感のせいで眠気との戦いに…。その後は、明るい中華系のおばさまたちに混じってニセドル札を使ったアート制作。皆さん無邪気で、底抜けに明るいのは国民性なのだろうか?続くアートオークションでは、目まぐるしく繰り広げられる売買の様子に圧倒され、未知の世界にワープした気分。

ランチで夢見心地のまま食べたムール貝は驚くほどジューシーで、一気に現実に引き戻された。お酒が飲めない私は、かなえ姉さんのワインテイastingセミナーを見学。その後、アフタヌーンティーでスコーンなどをいただきながらイングリッシュブレックファーストティーを堪能。気分はすっかり英国マダム。ここで飲んだ紅茶が気に入り、下船後に購入。

カジノは見学だけにとどめ、フォーマルドレスに着替えてクルーの紹介イベントへ参加。キャプテンを含む主要メンバーの紹介の後、シャンパンタワーに初挑戦。ほんの少しだけ売れっ子ホステス気分を味わう。再び豪快なコースディナーを堪能した後は、専用ホールでオリジナル・ミュー

ジカルを鑑賞。これが想像以上のクオリティで、クルーズのエンターテインメントの本気を垣間見た瞬間だった。そしてこの日も、幸せな気分のまま即熟睡。

DAY3 イーデン寄港 15th Mar.

目が覚めると、そこはシドニー南部の街イーデン。前夜、モーニングサービスをお願いしていたので、ゆっくりお部屋で朝食。……にもかかわらず、カフェのチアシードデザートがあまりに美味しそうで完食。「健康のため」と言い訳しつつ。

さあいよいよ上陸!船着場では、偶然何匹ものエイが魚を追って捕食する様子を間近で観察できた。これには感動。さらに、エビ漁帰りのおじさんから茹でたての海老を分けてもらい、その美味しさに悶絶……!

その後は、

- ・趣ある街並みを散策
 - ・海辺で貝拾い
 - ・カフェラテでひと休み
 - ・ショッピング
- と、イーデンを大満喫!



遅めのランチは、船に戻ってビュッフェで、スパイスカレー、ラム、チリポテト、バーガーのまさに多国籍の布陣。そして、バナナとレモンのミックスソフトを舐めながらイーデン出港を見届けました。その後、シドニー港までは高速航行。デッキで風を感じながら、ノンアルのピニャコラーダを片手におしゃべり。CHANELの香水イベントでは、たくさんのラインナップを紹介してもらい、自分の好みを発見!これも収穫。

そして、最後の夜は、我々のテーブル専属のBannさんサーブの楽しいコースディナー。やっと上手にオーダーできるよう

になったのに、もう終わりなんて……

夜のショーは、3人の女性シンガーによるコミカルなコンサート。歌唱力・表現力ともに素晴らしく、大満足!そして、やっと晴れた夜空で念願の南十字星探し!人生で初めて、肉眼で見ることができて胸がいっぱいになりました。

DAY4 シドニー下船

16th Mar.

目が覚めるとすでにシドニー港に着岸後。最後のビュッフェをじっくり味わい、名残惜しく下船。スーツケースを預かってもらい、シドニーの街を探検!歴史ミュージアム、週末限定のマーケットを散策し、バスでパディントンまで足を伸ばし、そこからお洒落なサリー・ヒルズを経由し、ハイマーケットでお店の多さと安さと活気に圧倒され……

途中、LGBTQの街の寛容な雰囲気を感じたり、日本にも進出しているカフェillsを発見したり、Yo-chiのフローズンヨーグルトで、空腹と暑さをしのぎつつ、ウールワースなどスーパー2ヶ所でお土産を無事購入。その後、美味しいコーヒーを求めて、LRTで洗練されたストランド・アーケードへ移動。地元の人に愛される名店「Gumption」でフラットホワイトを飲み、歓喜!高級チョコレートショップで試食を楽しんだ後、再びロックスの街へ。

すると、ちょうどセント・パトリックのイベントが開催中!緑の帽子や服を着た人たちが大盛り上がりしていて、異世界に迷い込んだような光景。

その後、かなえ姉さんのホテルに戻り、屋上から景色を楽しんでいたら、次の目的地に向かうロイヤル・プリンセス号を発見。見送るうちにセンチメンタルな気持ちになりつつ、最後はハーバーブリッジのたもとまでお散歩。

こうして、私の初クルーズは幕を閉じました。

番外編

帰路シドニー空港に向かうため、スーツケースをピックアップし、サーキュラー・キー駅に行ったものの、電車は3駅先のセントラル駅までしか運行していないとの掲示が。理由は事前に決まっていた路線工事。代わりに空港行きの無料シャトルバスが出ていましたが……まったく混乱なし!

この様子を見て、オーストラリア人の「生活を重視する考え方」



を実感しました。実際、日曜日でも17時になれば、お客さんがいても迷うことなくお店を閉めてしまいます。家族との時間を大切にその姿勢は、潔く見習いたいものです。

ロイヤル・プリンセス号についての補足

- ・追加料金を支払うことで、アルコールフリーパス、Wi-Fiフリーパス、有料レストランの利用などが可能。
- ・船内のカメラマンがプロの技術で写真を撮影。撮影された写真はメダリオンが個体を認識し、各自のアプリ内に自動表示され、気に入ったものがあれば購入可能。
- ・メダリオンを身につけていると、部屋に近づくだけでドアのロックが自動解除される。さらに、部屋の前のプレートには自分の顔写真が表示される仕組み。
- ・同室者や位置情報提供を了承した乗船者の居所、イベント会場がアプリに表示される。向きたい場所へのルートも示してくれるので移動が楽。
- ・寄港地ごとに、複数のオプションツアー(有料)が用意されている。
- ・基本的にオールインクルーシブのため、今回私が船内で支払ったのは、事前に決まっていたチップ(3日分)とカクテル代のみ。
- ・ロイヤル・プリンセスは、米プリンセス・クルーズが運航する142,714総トンのクルーズ客船で、北半球の夏はアラスカ、冬はオーストラリア周辺のクルーズを行っている。最大旅客定員は4272名、乗組員は1346名。
- ・1998年からオーストラリアはカボタージュ規制を緩和して、一時免許取得によって外国籍船の国内クルーズが可能となっている。今回のシドニー発着クルーズも、バミューダ国籍のロイヤル・プリンセスによるオーストラリア国内クルーズである。